

浜の活力再生プラン
(第 2 期)

1 地域水産業再生委員会

組織名	深浦町北金ヶ沢地域水産業再生委員会 ID1102032
代表者名	会長 小枝裕幸 (新深浦町漁業協同組合 代表理事組合長)

再生委員会の構成員	新深浦町漁業協同組合、深浦町、青森県西北地域県民局地域農林水産部鱒ヶ沢水産事務所
オブザーバー	青森県農林水産部水産局水産振興課

対象となる地域の範囲及び 漁業の種類	深浦町北金ヶ沢地区 漁業者数 132 名 ・定置網漁業 (底建網漁業含む) 130 名 ・いか釣漁業 2 名
-----------------------	--

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

<p>青森県の日本海側に位置する深浦町北部の「北金ヶ沢地区」は、漁業が中心の地域であり、定置網漁業及び底建網漁業を主体として漁村が形成されている。漁獲対象としては冬から春にかけて盛漁期となるヤリイカやヒラメ、秋から冬にかけて盛漁期となるサケ等に大きく依存しており、これらの魚種の漁獲量の減少や、燃油高騰などによる漁業経営への圧迫が懸念され、漁業者の高齢化と共に地域の大きな課題となっている。</p> <p>これらを解決するため、更なる付加価値向上や新たな収入源確保による所得向上と経費削減に早急に取り組む、地域の活力の再生を目指す。</p>
--

(2) その他の関連する現状等

--

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

<p>水産物の付加価値向上や効率的な漁業生産による操業コスト削減など前期プランにおいて成果が得られた取組について継続する。加えて、新たな取組としてサーモン養殖の増産を実施し、併せて漁業所得向上の取組を推進する。</p> <p>① 漁獲物の品質に関する全漁業者の意識を改善し、引き続き水産物の付加価値向上を目指す。</p> <p>② 定置網漁業者によるヒラメ・タイの活〆神経抜き鮮魚の出荷に引き続き取り組む。</p> <p>③ 漁業者による鮮魚の直接販売を引き続き行う。</p> <p>④ 新たにサーモン養殖生産の増産に取り組み、所得向上を目指す。</p> <p>⑤ 漁業コスト削減のため、引き続き漁船の燃費向上による省燃油の取組を実施する。</p>
--

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

<ul style="list-style-type: none">・ 漁協の資源管理計画に基づいて漁期の短縮（底建網漁業、定置網漁業）・ 漁協の共同漁業権行使規則における規制措置の設定（底建網漁業、定置網漁業）

(4) 具体的な取組内容 (毎年ごとに数値目標とともに記載)

1年目 (平成31年度)

漁業収入向上のための取組	<p>1.イカ釣り漁業者は次の点に取り組み魚価の2%向上を目指す。</p> <p>漁業者は、季節毎に量を調整した砕氷について、コテを使用して発泡スチロール箱の底部に平らに押し詰めた上でイカを迅速に並べて異物混入しないようすぐに蓋をする。さらに直射日光等による高温化を防ぐため、魚箱をシートで覆うことにより低温管理(5℃以下)を徹底し、魚価の向上を図る。なお、溶解水によるイカの白色化を防止するため、底部に水抜き穴のついた発泡スチロール箱を使用する。</p> <p>2.定置網漁業者は次の点に取り組み、漁業収入の7%向上を目指す。</p> <p>漁業者は、前期から引き続き活〆や神経抜きに取り組みとともに、漁協が開催するタイ、ヒラメの活〆や神経抜きの講習会に積極的に参加して技術を習得する。具体的には、タイでは1.5kg以上、ヒラメでは1.2kg以上の個体の活〆や神経抜き作業を船上で行い、時化の時には活魚のまま持ち帰り、新荷捌所活魚水槽にて安静な状態にして休ませた後に行う。活〆や神経抜き作業の後は迅速に箱詰め、施氷作業を行い低温管理(5℃以下)を徹底することで魚価の向上を図る。</p> <p>なお、鮮魚の取扱いに関しては、年に一度委員会を通じて漁業者が相互に確認することで浜全体の意識を改善し、仲買の信用の向上に努める。</p> <p>3. 漁業者による販売促進活動</p> <p>漁業者は、漁協とともに、活〆タイやヒラメの品質の良さを宣伝する販売戦略を立案し、インターネット等を活用した産地直送などにより消費拡大・価格向上を目指す。併せて中学校で行われている料理教室の食材として地域の水産物を提供し、魚食普及の促進による消費拡大を目指す。</p> <p>4. 養殖業の推進</p> <p>漁業者は、平成30年度より養殖枠を増やししながらサーモンの養殖量を増やしていく計画である。枠の設置や給餌作業には地元漁業者による作業があり、漁業収入増加に寄与する。</p>
漁業コスト削減のための取組	<p>全漁業者は引き続き、船底、舵、プロペラ等の洗浄・研磨等を実施して航行時の船体に係る抵抗を軽減するとともに、漁船の減速走行に努めることにより、燃油消費量を節減し、消費コストを12%削減する。</p>
活用する支援措置等	<ul style="list-style-type: none">・省燃油活動推進事業(国)・浜の活力再生・成長促進交付金(国)

2年目（平成32年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>1.イカ釣り漁業者は次の点に取り組み魚価の2%向上を目指す。</p> <p>漁業者は、季節毎に量を調整した砕氷について、コテを使用して発泡スチロール箱の底部に平らに押し詰めた上でイカを迅速に並べて異物混入しないようすぐに蓋をする。さらに直射日光等による高温化を防ぐため、魚箱をシートで覆うことにより低温管理（5℃以下）を徹底し、魚価の向上を図る。なお、溶解水によるイカの白色化を防止するため、底部に水抜き穴のついた発泡スチロール箱を使用する。</p> <p>2.定置網漁業者は次の点に取り組み、漁業収入の10%向上を目指す。</p> <p>漁業者は、前期から引き続き活〆や神経抜きに取り組みとともに、漁協が開催するタイ、ヒラメの活〆や神経抜きの講習会に積極的に参加して技術を習得する。具体的には、タイでは1.5kg以上、ヒラメでは1.2kg以上の個体の活〆や神経抜き作業を船上で行い、時化の時には活魚のまま持ち帰り、新荷捌所活魚水槽にて安静な状態にして休ませた後に行う。活〆や神経抜き作業の後には迅速に箱詰め、施氷作業を行い低温管理（5℃以下）を徹底することで魚価の向上を図る。</p> <p>なお、鮮魚の取扱いに関しては、年に一度委員会を通じて漁業者が相互に確認することで浜全体の意識を改善し、仲買の信用の向上に努める。</p> <p>3. 漁業者による販売促進活動</p> <p>漁業者は、漁協とともに、活〆タイやヒラメの品質の良さを宣伝する販売戦略を立案し、インターネット等を活用した産地直送などにより消費拡大・価格向上を目指す。併せて中学校で行われている料理教室の食材として地域の水産物を提供し、魚食普及の促進による消費拡大を目指す。</p> <p>4. 養殖業の推進</p> <p>漁業者は、平成30年度より養殖枠を増やしながらかサーモンの養殖量を増やしていく計画である。枠の設置や給餌作業には地元漁業者による作業があり、漁業収入増加に寄与する。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>全漁業者は引き続き、船底、舵、プロペラ等の洗浄・研磨等を実施して航行時の船体に係る抵抗を軽減するとともに、漁船の減速走行に努めることにより、燃油消費量を節減し、消費コストを12%削減する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・省燃油活動推進事業（国） ・浜の活力再生・成長促進交付金（国）

3年目（平成33年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>1.イカ釣り漁業者は次の点に取り組み魚価の2%向上を目指す。</p> <p>漁業者は、季節毎に調整した砕氷について、コテを使用して発泡スチロール箱の底部に平らに押し詰めた上でイカを迅速に並べて異物混入しないようすぐに蓋をする。さらに直射日光等による高温化を防ぐため、魚箱をシートで覆うことにより低温管理（5℃以下）を徹底し、魚価の向上を図る。なお、溶解水によるイカの白色化を防止するため、底部に水抜き穴のついた発泡スチロール箱を使用する。</p> <p>2.定置網漁業者は次の点に取り組み、漁業収入の12%向上を目指す。</p> <p>漁業者は、前期から引き続き活〆や神経抜きに取り組みとともに、漁協が開催するタイ、ヒラメの活〆や神経抜きの講習会に積極的に参加して技術を習得する。具体的には、タイでは1.5kg以上、ヒラメでは1.2kg以上の個体の活〆や神経抜き作業を船上で行い、時化の時には活魚のまま持ち帰り、新荷捌所活魚水槽にて安静な状態にして休ませた後に行う。活〆や神経抜き作業の後には迅速に箱詰め、施氷作業を行い低温管理（5℃以下）を徹底することで魚価の向上を図る。</p> <p>なお、鮮魚の取扱いに関しては、年に一度委員会を通じて漁業者が相互に確認することで浜全体の意識を改善し、仲買の信用の向上に努める。</p> <p>3. 漁業者による販売促進活動</p> <p>漁業者は、漁協とともに、活〆タイやヒラメの品質の良さを宣伝する販売戦略を立案し、インターネット等を活用した産地直送などにより消費拡大・価格向上を目指す。併せて中学校で行われている料理教室の食材として地域の水産物を提供し、魚食普及の促進による消費拡大を目指す。</p> <p>4. 養殖業の推進</p> <p>漁業者は平成30年度より養殖枠を増やしながらかサーモンの養殖量を増やしていく計画である。枠の設置や給餌作業には地元漁業者による作業があり、漁業収入増加に寄与する。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>全漁業者は、船底、舵、プロペラ等の洗浄・研磨等を実施して航行時の船体に係る抵抗を軽減するとともに、漁船の減速走行に努めることにより、燃油消費量を節減し、消費コストを12%削減する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・省燃油活動推進事業（国） ・浜の活力再生・成長促進交付金（国）

4年目（平成34年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>1.イカ釣り漁業者は次の点に取り組み魚価の2%向上を目指す。</p> <p>漁業者は、季節毎に調整した砕氷について、コテを使用して発泡スチロール箱の底部に平らに押し詰めた上でイカを迅速に並べて異物混入しないようすぐに蓋をする。さらに直射日光等による高温化を防ぐため、魚箱をシートで覆うことにより低温管理（5℃以下）を徹底し、魚価の向上を図る。なお、溶解水によるイカの白色化を防止するため、底部に水抜き穴のついた発泡スチロール箱を使用する。</p> <p>2.定置網漁業者は次の点に取り組み、漁業収入の12%向上を目指す。</p> <p>漁業者は、前期から引き続き活〆や神経抜きに取り組みとともに、漁協が開催するタイ、ヒラメの活〆や神経抜きの講習会に積極的に参加して技術を習得する。具体的には、タイでは1.5kg以上、ヒラメでは1.2kg以上の個体活〆や神経抜き作業を船上で行い、時化の時には活魚のまま持ち帰り、新荷捌所活魚水槽にて安静な状態にして休ませた後に行う。活〆や神経抜き作業の後には迅速に箱詰め、施氷作業を行い低温管理（5℃以下）を徹底することで魚価の向上を図る。</p> <p>なお、鮮魚の取扱いに関しては、年に一度委員会を通じて漁業者が相互に確認することで浜全体の意識を改善し、仲買の信用の向上に努める。</p> <p>3. 漁業者による販売促進活動</p> <p>漁業者は、漁協とともに、活〆タイやヒラメの品質の良さを宣伝する販売戦略を立案し、インターネット等を活用した産地直送などにより消費拡大・価格向上を目指す。併せて中学校で行われている料理教室の食材として地域の水産物を提供し、魚食普及の促進による消費拡大を目指す。</p> <p>4. 養殖業の推進</p> <p>漁業者は平成30年度より養殖枠を増やしながらかサーモンの養殖量を増やしていく計画である。枠の設置や給餌作業には地元漁業者による作業があり、漁業収入増加に寄与する。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>全漁業者は、船底、舵、プロペラ等の洗浄・研磨等を実施して航行時の船体に係る抵抗を軽減するとともに、漁船の減速走行に努めることにより、燃油消費量を節減し、消費コストを12%削減する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・省燃油活動推進事業（国） ・浜の活力再生・成長促進交付金（国）

5年目（平成35年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>1.イカ釣り漁業者は次の点に取り組み魚価の2%向上を目指す。</p> <p>漁業者は、季節毎に調整した砕氷について、コテを使用して発泡スチロール箱の底部に平らに押し詰めた上でイカを迅速に並べて異物混入しないようすぐに蓋をする。さらに直射日光等による高温化を防ぐため、魚箱をシートで覆うことにより低温管理（5℃以下）を徹底し、魚価の向上を図る。なお、溶解水によるイカの白色化を防止するため、底部に水抜き穴のついた発泡スチロール箱を使用する。</p> <p>2.定置網漁業者は次の点に取り組み、漁業収入の12%向上を目指す。</p> <p>漁業者は、前期から引き続き活〆や神経抜きに取り組みとともに、漁協が開催するタイ、ヒラメの活〆や神経抜きの講習会に積極的に参加して技術を習得する。具体的には、タイでは1.5kg以上、ヒラメでは1.2kg以上の個体の活〆や神経抜き作業を船上で行い、時化の時には活魚のまま持ち帰り、新荷捌所活魚水槽にて安静な状態にして休ませた後に行う。活〆や神経抜き作業の後には迅速に箱詰め、施氷作業を行い低温管理（5℃以下）を徹底することで魚価の向上を図る。</p> <p>なお、鮮魚の取扱いに関しては、年に一度委員会を通じて漁業者が相互に確認することで浜全体の意識を改善し、仲買の信用の向上に努める。</p> <p>3. 漁業者による販売促進活動</p> <p>漁業者は、漁協とともに、活〆タイやヒラメの品質の良さを宣伝する販売戦略を立案し、インターネット等を活用した産地直送などにより消費拡大・価格向上を目指す。併せて中学校で行われている料理教室の食材として地域の水産物を提供し、魚食普及の促進による消費拡大を目指す。</p> <p>4. 養殖業の推進</p> <p>漁業者は平成30年度より養殖枠を増やしながらかサーモンの養殖量を増やしていく計画である。枠の設置や給餌作業には地元漁業者による作業があり、漁業収入増加に寄与する。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>全漁業者は、船底、舵、プロペラ等の洗浄・研磨等を実施して航行時の船体に係る抵抗を軽減するとともに、漁船の減速走行に努めることにより、燃油消費量を節減し、消費コストを12%削減する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・省燃油活動推進事業（国） ・浜の活力再生・成長促進交付金（国）

(5) 関係機関との連携

--

4 目標

(1) 所得目標

漁業所得の向上 10%以上 (イカ釣り漁業)	基準年	直近3カ年の平均：
	目標年	平成35年度：
漁業所得の向上 10%以上 (定置網漁業)	基準年	直近3カ年の平均：
	目標年	平成35年度：

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

<p>1. イカ釣り漁業</p> <p>基準年の漁業所得については、漁協で把握できる構成員の水揚げ金額及び経費から、減価償却費及び人件費を控除した金額とした。</p> <p>2. 定置網漁業</p> <p>基準年の漁業所得については、①底建網専業漁業者、②底建網・建網兼業漁業者、③小建網・磯漁業者、④大型定置網漁業者をモデルケースとして抽出し、平成27年～平成29年の税務申告書類から平均所得率を算出して全漁業者の所得を推測した。</p> <p>推計方法は、</p> <ol style="list-style-type: none">1) モデルケースとなった漁業者(①については全75名中9名、②については全24名中4名、③については全25名中3名、④については全1名中1名)の過去3ヶ年分の漁業経費を確定申告書により調査し、漁業種類ごとの平均所得率を算出。2) 全漁業種類を個人ごとに各漁業種類に分類。3) 過去3ヶ年分の漁業収入に漁業種類ごとの平均経費率を乗じて平均所得を算出。4) 漁業者ごとの平均所得を合算し基準年の漁業所得とした。 <p>目標年の漁業所得は算定根拠のとおり。</p>
--

(3) 所得目標以外の成果目標

ヒラメの神経締め出荷割合	基準年	直近3カ年の平均：3.4 (%)
	目標年	平成35年度：8.5 (%)

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

策定資料のとおり

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
省燃油活動推進事業 (国)	船底清掃などによる燃油の削減により、漁業経費を削減すると共に漁業者自らが省エネを意識する事で浜の活力再生プランの効果が高まる。
浜の活力再生・成長促進交付金 (国)	・ 荷捌施設 現在設置されている活魚水槽は荷捌き施設から 500mほど離れており、海水は汲み上げた海水をそのまま利用している。また船の接岸場所から離れていることから夏場などの活魚の荷受けに時間が掛かることで活魚の質の低下を招いている。水産物荷捌施設の整備により、活魚水槽が船の接岸場所に近い所に設置されることで、活魚の荷受が迅速に行われるとともに既設殺菌海水施設の海水の利用が可能になることで、殺菌海水を水槽水として利用し、活魚神経抜き出荷や、朝市、飲食店直売への活用が図られる。